

陽のさす里山環境整備事業概要 (H30-31年度事業)

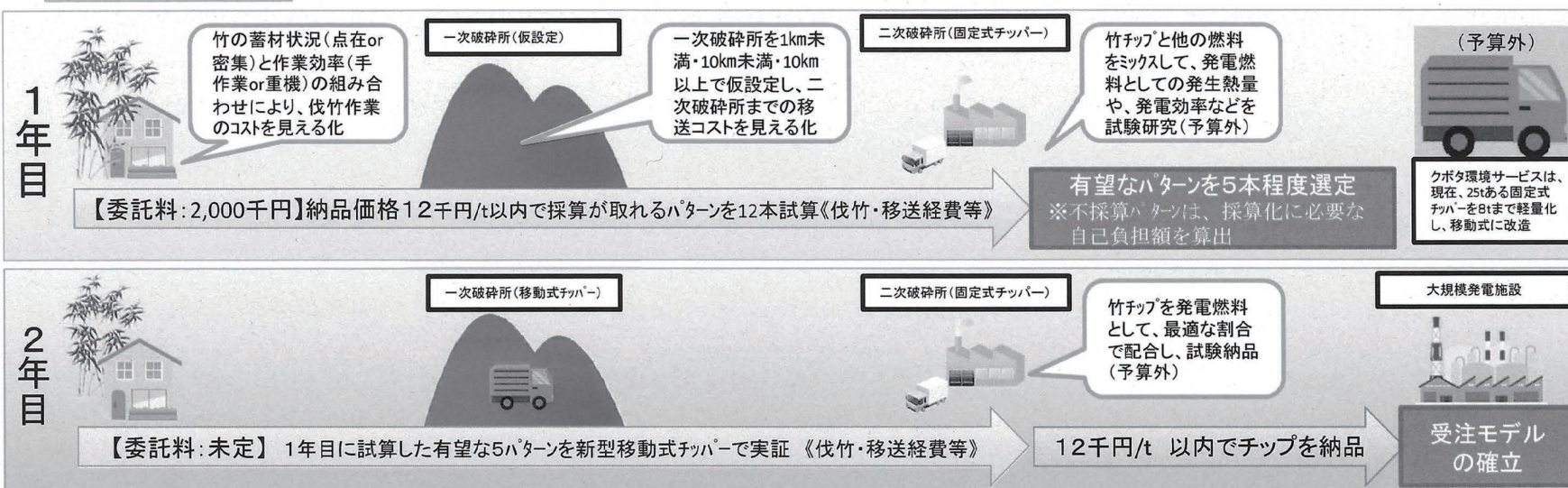
現 状

- ・高齢化により、地域住民の自助による里山の管理（伐竹等）が困難となっている。
- ・里山管理の新たな担い手として期待される素材生産業者は、伐竹等の作業コストが見えないため、受注に難色を示している。
- ・竹の灰は、軟化し、炉に粘着するうえ、塩化物により炉を溶かすため、燃料としての受入れ先がなかなか見つからない。

課 題

- ・素材生産業者が伐竹をビジネスモデルとして確立するためには、現場の状況に応じた伐竹・移送作業コストの見える化が必要。
- ・竹の移送コストを低減するためには、現場で大量に処理できる移動式チップーが必要。（クボタ環境サービスが新型チップーを開発予定《予算外》）
- ・炉を傷めやすい竹チップを発電燃料にするためには、発生加リーや燃料加工方法等の研究が必要。（大分エコセンターが研究協力予定《予算外》）

事業概要



※3年目以降は、素材生産業者へ受注モデルを周知するとともに、各森林組合を窓口として、ワンストップで伐竹作業を依頼できる仕組みを構築

期待される将来像

良好な里山環境の整備促進 = 暮らしやすい住環境の整備促進

